

関西 学友会



2010

ロータリー米山奨学生学友会(関西)



Rotary Yoneyama Scholarship Alumni Association

26

Table of Contents

Table of Contents	2
二年目を迎えて (朴 日)	3
米山奨学事業が目指すこと (村橋義晃)	3
奨学金選考で思うこと (磯田郁子)	4
ソウルでの学友懇親会 (林小徹)	5
私の夢について (Aye MyatMon (ミャンマー))	6
私の夢 (アギラルピネダケレンギセラ (ホンジュラス))	7
私の夢 (PHANNALATH XAYSAMONE(ラオス))	7
来日して自分の国(ふるさと)と違うなと思ったこと (田由甲(中国))	8
私の夢(程玉芬(マレーシア))	9
来日して自分の国と違うなと思ったこと (鄭スンロク(韓国))	9
私の夢 (朴宗仁 (韓国))	10
My Dream in Future (RAUNO GIFFHORN (German))	11
来日して自分の国と違うなと思ったこと (李映瑩(台湾))	11
私の夢 (劉璐(中国))	12
ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2008年度会計収支決算報告書	13
ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2009年度会計予算(案)	13
相談コーナー	14
学友消息(2009~2010年度)	14
活動報告	14
リンク集	14
編集後記	15
募集要領 (2010年度会報)	15

二年目を迎えて

国際ロータリー第2660地区 米山奨学生学友会(関西) 会長

朴 日

(元世話クラブ：大阪東淀ちゃやまちRC)



国際ロータリー第2660地区 米山奨学生学友会(関西)の会長に就任してからもうすぐ二年になります。会員の皆様をはじめ、ロータリアンの皆様に支えられ、ここでお礼を申し上げます。

ご存知のように、当学友会は元米山奨学生の組織として設立され、元及び現米山奨学生間の交流を通じて親睦及び互助を促進すると共に、国際親善及び世界の平和に寄与することと、財団法人ロータリー米山記念奨学会の事業の発展に寄与することを目的としております。今後も上述の目的達成のために引き続き努力したいと思います。

さて、米山奨学金ですが、今年もたくさんの留学生は米山奨学金を受給して頂き、金銭面での支援だけではなくカウンセラー制度などで学業に専念するように支援を頂いております。

奨学金の受給終了生は日本で就職するか、本国に帰るケースも増えております。

就職して日本の各地か本国に帰ることにより、元米山奨学生の交流はより難しくなりました。また、

本国に帰国した元奨学生ですが、再開発、実家の引越しなどで連絡先が変更になりご連絡が取れないケースも増えております。

こうしたことを考えますと、当学友会の役割は今後一層重要性を増すものと思われま。

どのようにして工夫して絆を強めるかと身の引き締まる思いではありますが、会員の皆様をはじめ、ロータリアンの皆様のご指導、ご支援をいただきながら職責を担って参りたいと思っております。

今後、日本国内に在住しているOBだけではなく、帰国したOBとの交流を増やしたいと思っております。

現在、台湾在住のOBとの交流会を企画しております。たくさんの方が参加していただき、懇親を深める同時にさまざまな情報交換ができ、お互いにより刺激になっていただけることを願っております。

一言でも皆様におかれましては、当学友会の使命につきまして特段のご理解をいただき、今後の維持、発展にご支援を賜りますようお願いいたします。

米山奨学事業が目指すこと

地区米山奨学委員会 委員長

村橋義晃

(大阪中之島RC)



日本での留学生活を通じて学友会の皆さんが学ばれた事、そして、大勢の方々との出逢い、この奨学事業ならではの素晴らしいものを得られたのではないのでしょうか。

皆さんにとって米山奨学生として在籍された期間は、短い月日であったと思いますが、この奨学事業は、創設から半世紀以上の歴史を持つ、日本のロータリー独自の奨学制度であり、事業創設の原点は、外国人留学生の支援を行なう奨学事業を通じて、世界に“平和日本”の理解を促す事が創設時の願いでありました。

現在も創設時の理念を基に外国人留学生の支援と交流を通じて、国を超えた絆や信頼関係を築き、20年30年後の實りを願い、一人ひとりの胸に世界平和を願う“心”を世界中に植える“植樹”の様な奉仕事業を行なっています。

民間団体が行なう奨学事業としては、奨学生総数、

奨学金の総額からみても世界に誇るべき事業規模であり、又、宗教や思想の強要が無い素晴らしい奨学制度であります。

しかし、半世紀の時を経て世界情勢や取り巻く環境も変化し、奨学制度のあり方も貧窮救済支援型から知的国際貢献型に変化してきており、この事業の捉え方にも様々な形が生じ、支援する立場の方々の心情も微妙に変化してきていると思っております。

ロータリーに進化が求められる様に奨学事業にも時代の変化に適合する柔軟な姿勢が求められます、この様な時こそ改めて事業創設の原点を再認識する必要がある様に思っております。

「大きな夢」を持ち続け、学友の皆さんが大きなフィールドで活躍され、将来の米山奨学事業の礎となれることを期待しております。

最後に、いつまでも米山奨学事業創設の原点を忘れないで下さい。

奨学金選考で思うこと

地区米山奨学委員会 副委員長

磯田郁子

(大阪東淀ちややまちRC)



先日、2010年度の米山記念奨学生の選考を行いました。提出された研究計画書などの書類に目を通して、気がついたことがいくつかあります。まず、提出書類に誤字、脱字が多いこと。また、訂正する際に斜線を引いてその上に正しい字を書きなおしているもの、黒く塗りつぶして正しい字をその横に書いているもの、書き忘れた言葉を後で書き加えたものなどもありました。私たち日本人の感覚でいくと、奨学金の申請用紙のような大切なものを書く際は、下書きをして、指導教官などに見てもらい、間違いがないという状態になって清書をするのが一般的です。清書をしていて、間違ってしまった場合はもう一度初めから書くのが普通です。場合によっては2回も3回も書き直すこともあります。

しかし、今回の提出された申請用紙や小論文、研究計画書の中にはとても下書きをして書いたものとは思えない、急いで書いたと思われるものがいくつもありました。日本人はそのような提出物を見て、「やる気がないのだろう。」とか「真剣みがないのだろう。」などといった評価をしてしまいます。これはとても残念なことです。とても優秀な留学生であるにも関わらず、提出書類で「いい加減な人」というレッテルを貼られてしまうわけです。

国によっては、間違いを線で消して正しい字をその横に書くことが正式な訂正の仕方である場合もあるかもしれません。しかし、日本ではテストのようにその場で書くのではなく、自宅でじっくりと時間をかけて書くものには、間違いのない完璧な書類を

求めます。修正液などで消してあるものもあまりいい評価はしないでしょう。

日本では学校で行われるテストは鉛筆で書いて、間違えた場合は消しゴムで消します。しかし日本以外の国の多くは、テストでは消すことのできないボールペンなどで書くことが常識だそうです。そのような習慣の違いが今回の奨学金の申請用紙の書き方にもあったのかもしれない。

しかし、審査をするのは日本人なので、日本の書き方を知っておいたほうが有利だと言えるでしょう。これから就職などで書類を提出する場合はそのようなことに注意していただければと思います。

ある会社で社員募集の求人をした時、非常に多くの履歴書が届いたそうです。その数多くの履歴書の中から、まず面接に来てもらう人を選ぶ際に何を基準に選んだか。人事担当の方からそんな質問をされたことがあります。「字の美しさですか。それとも写真ですか。」私はそう聞いてみました。その方の答えはこうでした。「印鑑がどれだけまっすぐにきれいに押されているかですよ。」「なるほど。」と私は感心させられました。いかに丁寧に履歴書を仕上げるか。印を押すという簡単な作業に、その履歴書に対する思いが込められているのです。奨学金の申請用紙もそういうことですね。

自分をアピールする場合、やはりそういう細かなことから気をつけることが大切だといえるでしょう。是非、日本でのこれからの生活の役に立ててください。

【知識】

[ロータリーの誕生]

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、シカゴに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリー・クラブという会合を考えました。こうして1905年2月23日にロータリー・クラブの原点となるシカゴロータリークラブが誕生しました。ロータリーとは、会員が持ち回りで順番に、集会を各自の事務所で開いたことから名付けられました。

それからは志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれ、国境を越えて、今では世界166ヶ国の地域に広がり、クラブ数 32,176、会員総数 1,214,127人(2004年12月31日RI公式発表)に達しています。そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

ソウルでの学友懇親会

学友会 前会長

林小微

(元世話クラブ：和歌山東RC)

2003年に第2660地区の米山委員長山本様より消息不明の学友の調査を受けて以来7年が経ちます。また、地区内のクラブからも、学友の現在の情報について問い合わせが時折きたりしております。大半は台湾、韓国、中国の学友ですので、地道に調べればなんとかなると楽観的に考えていましたが、やはりある程度的人数までいくと壁にぶつかるのが現実でした。台湾の場合、私の母国ということもあり、学友の実家などに直接電話したりすることも可能ですが、困った時に頼りに出来たのはやはり台湾米山学友会(正式名：財団法人中華民國扶輪米山會)の存在でした。

一方、韓国では韓国米山学友会に連絡してもなかなかスムーズにいかない場合が多々ありました。そこで昨年、ソウルに長期滞在することがあり、この機会に日本で得た情報をもとに韓国の学友とできるだけ連絡をとり、ソウルで懇親会を開くことができました。

懇親会が夏休み中ということもあり、学会や旅行などの用事であまり多く的人数は集まりませんでした。その際「今まで学友会から連絡を受けたことがない」、「韓国学友会の存在すら知らなかった」

というような声が聞かれ、「できれば学友同士の集まりがあれば嬉しい」というような話も出ました。また、当日出席できなかった学友も「次回は是非出席したい」という方も多く、今後は韓国の学友も活動が活発になっていくのではと期待しています。

この数年、殆どの学友がEメールアドレスを持っています。どこへ行ってもお世話になったクラブへ近況を知らせることができます。今、日本国内に学友会29があり、海外は3つあります。進学や就職で現住所から離れていても各学友会が交流・連携していけば互いに刺激を受けたりして、より活動が活発になっていくのでは、と考えます。こういった交流こそ日本に留学し米山精神の薫陶を受けた私たち学友の大切な役割ではないかと考えます。

現在、本学友会では次年度に台湾を訪問し、財団法人中華民國扶輪米山會(台湾学友会)と交流を持つということを計画中です。まだ実現するかどうかはわかりませんが、こういった活動を広げていき、近い将来、力を合わせて日本以外の国同士でも交流の輪を広げていければと期待しています。これからも皆様のご協力とご指導のもとロータリーの理念、世界平和の実現につながることを祈念しつつ。

【ソウルでの懇親会】



私の夢について

関西大学

総合情報学部 総合情報学科

Aye MyatMon (ミャンマー)

(世話クラブ：摂津RC)



ミャンマー出身のエーミヤットモンです。子供の時から、読書が好きで、時間があると世界の出来事を書いてあるニュースの本から色々な業界の本を読むようにしていました。それと、父の仕事現場についていて仕事の話、世間話等を聞くようにしていました。そうしているうちに、私は自分の国から出て、もっともっと広い世界を見たい気持ちが生まれました。色々な人種の人々と出会って、異なる発想と異なる強みを合して仕事をしたいと思いました。

世界中に色々な国があるなかで、私が一番興味を持った国は日本でした。なぜなら、日本は第二次世界大戦で戦場となって、大規模な空爆を受けたなど大きな影響があったのにもかかわらず、今では技術面で世界をリードしている先進国となっているからです。何も残っていない状況から、世界のトップに立てる状況までに変えることができる日本の力は感動するほどすごいと思いました。私はそういうことができる国で勉強し、母国では経験できないことを経験して、成長したいと思ったのが私は日本に留学したきっかけです。ミャンマーは戦争時、日本にいやな思いをされて事があったので、日本への留学を反対されたことがありました。ですが、私は、昔の日本と今の日本は違うと信じ、留学に迷うことがありませんでした。私の気持ちと同意であった父と母が、私の留学計画が成功できるように、色々な場面から支えてくれました。

私を信じてくれた親の期待に答えられるように頑張ろうという気持ちいっぱい日本へでてきました。

その私は、現在では、関西大学の総合情報学部で総合情報学を学んでいます。総合情報学部では、文系・理系という枠にとられることなく、「情報」をキーワードに情報化と社会に対応できる知識と技術を学ぶことができます。その中で、専門分野も色々ありますが、学びを進めていくなかで、自分の興味がある科目を勉強するほうが授業も面白くて、やる気ができると信じている私は、知識情報処理、ネットワーク情報処理系の授業を受けました。

いま述べたような科目をなぜ受けたのかは、機械と対話して世の中の人々が必要としている技術を生み出せるような技術者になりたいのが私の将来の目標だからです。ミャンマーみたいに技術の発展に遅れている国々を自分の技術で支えて変えていきたいです。そのためには、今の私は経験と知識が不十分なので、経験と知識を重ねていけるため、日本の企業での就職を決めました。留学時代も今もこれからも色々大変なことがあると思いますが、私はあきらめずに自分の夢へ向かって頑張っていきたいです。将来は、自分が生まれ育ったミャンマーと貴重な習い事、経験と知識を教えてくれた日本との架け橋になれることを望み、夢がかなうまで頑張っていきます。

【知識】

「米山梅吉略伝」

1868年(慶応4年)2月4日、東京芝田村町にて和田竹造とうたの三男として生まれる。5歳で父を失い、母の郷里である静岡県三島に移る。12歳のとき隣村の長泉村の大地主米山家の養子縁組の話が始まる。文筆立志を望み16歳で養家の意に反し沼津中学を2年で中退し上京、銀座の江南学校に入学、19歳で東京英和学院(青山学院の前身)に転じ米人講師につき語学研修、また東京府吏員などしながら苦学する。20歳のとき8年間アメリカへ留学する。

1917年(大正6年;50歳)10月、政府特派財政経済委員として渡米。

1920年10月20日東京ロータリー・クラブ創立、初代会長となる。(日本ロータリーの創始者である。)

1946年(昭和21年;79歳)4月28日、長泉村下土狩邸にて逝去する。

1952年(昭和27年)11月、日本ロータリーの創設者米山梅吉の功績を記念して、東洋諸国の学生を日本に留学させる東京クラブ奨学事業「米山基金」が企画され、12月可決、1953年に発足した。今や、全国クラブの支持を受け、1967年(昭和42年)に財団法人「米山記念奨学会」となり、現在は世界中から多くの留学生を受け入れている。

「ロータリーの理想と友愛」の最後に「凡そ、ロータリー会員は身分の高下と貧富に別なく、人種に拘らず、宗教家たるを問わず、政治家たるを論ぜず、寛大、忍耐、正義、親切、友誼(ゆうぎ)、親愛を我らの知る最善の小世界の住人に支給している人々に好意を伝える使節として終始するものである」と記している。

(ロータリー日本50年史、東京ロータリー・クラブ70年、米山梅吉伝より)

私の夢

大阪教育大学
特別支援心理学

アギラルピネダケレンギセラ (ホンジュラス)

(世話クラブ：大阪柏原RC)



はじめまして。私はホンジュラスから来ましたアギラルケレンと申します。3年前に日本にきました。大阪教育大学大学院修士課程で専特別支援心理学を専攻しています。

私は、ホンジュラスでよく日本文化と日本教育のすばらしさを耳にしました。日本は世界で教育大国だと思います。そして、日本の障害者は独立生活ができ、社会活動によく参加していると聞き、私は日本の特別支援教育システムに興味をもちました。

ホンジュラスは中央アメリカにあるので、日本へ来るのは難しいです。私は文部科学省の教育学研究科のプログラムをもらって、やっと大阪教育大学へ来ました。短い1年間だけの勉強では、物足りないとしみじみ感じましたので、大学院の試験を受けました。今までの日本での経験で、私、自身はかなり

成長したと思います。2009年4月からは米山奨学生になれて幸せです。大阪柏原ロータリークラブとロータリー・クラブ先生からいろいろな支援をいただき、研究のためにだけでなく、私の生活なども色々サポートしてもらっています。ロータリー・クラブの例会や活動や旅行に参加していますのでとても楽しいです。

だから私の夢は、日本の大学を卒業し、ホンジュラスの障害者のために働きたい。ホンジュラスの障害者のために、特別支援教育を計画してあげたいと思います。

ホンジュラスの障害者達も社会活動に参加できるように、ちからをつくしたいと思います。障害者に良い指導をして、独立して生活し、社会に参加できるようにさせたいと思います。

私の夢

大阪産業大学大学院
経済学専攻 修士課程

PHANNALATH XAYSAMONE(ラオス)

(世話クラブ：大阪うつぼRC)



留学生達のようにたくさんの夢を持って、私は2002年に、国費留学生として留学した。日本は、世界中で最も経済力・高技術を持っている先進国であり、美しい社会や文化・習慣である。それは私が日本留学する最も自由である。

私の国ラオスは、1975年に独立した発展途上国であり、経済は農業が中心であります。2020年までに開発途上国からの脱却を目標に掲げ、経済成長、社会や文化の発展、環境の保全などを目標に取り組んでいます。貧困撲滅を図るとともに、高い経済成長を目ざして社会経済の発展に取り組んでいます。母国の経済発展、農村地域開発および持続的森林資源活用などを充実するために、各種の高技術・高レベルの人材育成や専門家が必要であります。今でも海外の各先進国から援助を受けているラオスでは、その援助に支えられて、基礎教育や、各種の技術協力プロジェクトの充実、政策アドバイザーなどへのボランティアを受け入れるとともに、日本のNGOと地方自治体との共同による支援等を進めています。

ラオスで生まれた私が、大学生頃、先進国の経済発展のことを学んだとき、ラオスを経済的に発展させるなら、先進国の経済発展を学ぶことが必要だということである。国を経済発展させるため工業力が第一だと思い、工業力をさえあれば国の経済を遂げるとおもっていた。

私が日本で留学する目的は、自分の研究テーマを生かして母国の経済発展を成し遂げることです。とりわけラオスと国際機関との援助枠組を検討する際に、日本で学んだ知識や情報を利用できるように研究します。しかし、国費留学生の期間は大学までであった、大学院は自分負担なり、留学生生活が苦しかった。去年2月頃に米山奨学生の合格が届いた瞬間はいまでもはっきり覚えています。また、例会に参加し皆様と交流でき機会も与えて頂くことは私にとっては意外であり、魅力でもあります。米山奨学金のおかげで、私の研究や生活などをスムーズにできて、本当に感謝しています。将来は、日本で学んだ知識や経験などを十分に生かして、母国ラオスの経済成長、社会や文化、環境の保全のために取り組んでいきたいと思っています。

来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと

大阪大学大学院

文化形態論専攻

田由甲(中国)

(世話クラブ：池田RC)



中国の上海から来た田由甲です。2007年9月上海から大阪に参りまして、今は大阪大学文学部の東洋史研究室で勉強しております。今はマスター二年生で、来年卒業する予定です。将来は、帰国して先生になり、日本の文化と歴史を他の中国人の方に紹介し、双方の理解を深めようと考えています。

日本と中国は異なる歴史を有しているため、各自の文化をも持ち続けています。私が一番強く実感した文化の差異は、「一人暮らし」と「お弁当」に関する文化です。

一人暮らしというものは、留学しないと、私にとっては一生わからないかも知れません。殆どの留学生に対して、留学というものは、親族や友人から離れ、赤の他人しかいない所で一から始まる生活です。私の場合も、この様な状態から始めました。しかし、研究室の人に聞いて、少し驚いたのは、日本人としても、殆どの学生も一人暮らしを送っていることです。上海で学部生活を過ごしたとき、自宅通学がほとんどで、つまり、人口の流動性はそれほど激しくなかった。且つ殆どの学生は一人っ子で、学生時代は自宅に住むのが当たり前だと思われていました。しかし、殆どの日本の学生には、何人かの兄弟を持ち、家から離れて、一人暮らしを始めるのが大変自然だと考えられているそうです。それが文化と思考回路の違いとも言えるでしょう。

また、日本社会もこの様な一人暮らしの学生に大変な便利を提供しています。例を挙げますと、スーパーでは、大根を一本ではなく半分で販売している

こともあるし、キャベツも四分の一の量で売っていません。上海のスーパーや八百屋さんでは、この様なことは見当たりません。理由を考えてみると、たぶん上海側のスーパーの客層は家庭で、それに対して、日本側の客層は家庭と一人暮らしの人です。

もう一点の所に、上海と日本の差異を感じたのは、弁当というものです。日本人に対して、弁当は朝作って、冷めてもおいしい持参のもので、特に学生に対しては、とても便利な、かつ親切な存在とも言えます。しかし、今の上海の家族は、ほとんど弁当を作りません。作ろうとしても、朝ではなく、前の日の夜に作って、冷蔵庫に一晩おいて、翌日の昼でレンジして食べるものです。中国人に対しても、冷たい弁当を食べる習慣なんて全くありません。そのため、初めて研究室の同級生が冷たい弁当を食べている画面を見たとき、余りにもびっくり過ぎました。その違いの原因を探ってみますと、たぶんそれは双方朝食の差異に立脚していただと考えられます。日本人は朝ご飯とおかずと味噌汁を食べる習慣があるのに対し、中国はお粥と漬物か、あるいは点心かという軽いものを食べます。そのため、殆どの中国家庭では、朝には料理しません。故に、弁当を作ろうとしてもできません。一日前準備した弁当は、冷蔵庫の中で硬くなり、温めないとおいしくなりません。それが食文化の違いでしょう。

この様に、中国と日本には多少文化の差異が存在していても、双方相理解すれば、心の隔たりは生じないでしょう。



私の夢

大阪コミュニケーションアート専門学校

アニメーション専攻

程玉芬(マレーシア)

(世話クラブ：大阪東淀ちゃやまちRC)



私はアニメが大好きな22歳の女の子です。アニメが好きな気持ちは幼い時から今まで変わったことはありませんでした。自分の夢を叶えるためにどんなに苦勞しても、どんなに大変でも、諦めずにがんばりますっていう信念を持っています。座右の銘は「every things will be fine.」です。

私は子供の頃からアニメが大好きになりました。Disneyのアニメと日本のアニメを見ながら育ちました。私はアニメが夢と世の中のメッセージを人々に伝える素晴らしいものだと思います。毎日アニメを見て、アニメが好きで、いつの間にもその気持ちが見る側から造る側になりたくなるようになりました。自分の手で一枚一枚絵を描き、最後にキャラクターや風景が動かせることは満足感がいっぱい出ると感じ、アニメーターになる決意をしました。

小学校三年生の時スタジオジブリの宮崎駿さんの「トナリのトトロ」と出会いました。その作品にすごく感動しました。それから宮崎駿さんの他の作品を続々拝見しました。宮崎駿さんの作品に感動して、私も宮崎駿さんのような監督になりたくように思いました。そのきっかけで私は日本に留学することを決めました。

私は単純にアニメーターになるのではなくて、マレーシアのアニメ業界を発展したいです。8割のマレーシア人がアニメは子供のもの、大人になったらアニメを見ることはバカなことだと思います。私はそ

ういう考えが間違いだと思います。アニメは子供のものだけではなく、大人でも、年寄りでも好きになることは自然なことだっていうことを私はマレーシア人に伝えたいです。アニメは人に夢を与えるものであります。どんな年でもアニメが好きっていうことは恥ではないことだと思います。私はそう信じています。そしてマレーシアの人々にその思いを伝えたいです。

日本で3年間アニメーションを勉強していました。プロのアニメーター達からいろんな技術を学び身につけました。それだけではなく、プロの意識や仕事の態度なども学びました。そして今、日本に就職が決まりました。働く会社は私が憧れている宮崎駿さんの会社——スタジオジブリです。私は会社に入ってから、自分の腕を磨いて、能力をアップして、経験をするつもりです。それからマレーシアに帰って、アニメーターとして活躍したいです。自分がいっぱい愛情を入れ込んで、いろんな思いを入れて作ったアニメをたくさんの人に見せて、喜ばせて、感動させたいです。

私がアニメに感動した気持ちを世の中の人に伝えたいです。その気持ちを一生忘れずに、そしてその感動を広めたいです。いつか私のように一本の作品に感動されて、その感動をみんなに伝えたい人々ができたら嬉しいと思います。

来日して自分の国と違うなと思ったこと

大阪スクールオブミュージック専門学校

カレッジ音楽科 レコーディングエンジニアコース

鄭スンロク(韓国)

(世話クラブ：大阪鶴見RC)



私は韓国の済州道から参りました鄭スンロクと申します。4年前、初めて日本という国へ来て日本語専門学校と今通っている大阪スクールオブミュージック専門学校を巡りながら周りの環境と人々のファッション、習慣など、たくさんのことが違うと思いました。

最初、違うなと思ったことはやっぱり周りの環境でした。私が生まれて25年間過ごしたところは韓国の済州道という四面が海に囲まれ、韓国で一番高いハンラ山という山がある小さい島です。そういう

ところで過ごした私には日本という大きい国、大阪という都市とても大きかったです。

見えること全部、出会えた人々、そういうものから一つ一つが小さな島で住んだ私には「私は本当に小さな所で過ごしたな」という考えをするようにしました。高くて多くの建物、高い人口密度によってぎっしりと付いているマンション、世界的に有名な都市だから、いろんな国から留学のため、旅行のために来た外国人たち、そういうことを見て「環境が人をつくる」という言葉を実感するようになりました。

そして二番目は自分自身の個性をうまく表現したファッションです。韓国は流行に敏感です。だから、ほとんどの人々が流行に追いかけて自分の個性を失って似ている身なりをしています。そんな一方日本という国は流行なしに各自の個性に合わせていろいろの身なりをしていることを見られます。

最後は余裕がある生活習慣を持っていることです。韓国はすべてのものに早く早くしようという性向があります。別に悪くはないと思っていますが、たまには余裕が必要だと思います。私は前、日本語学校を通っている時、担当先生の結婚式があって日本の結婚式を経験してみることができ、機会があり

ました。新郎新婦と友人だちと一緒に食事をしながら楽しい結婚生活のために新郎新婦に助言の一言をしていることを見ました。結婚式だけして終わる形式的な韓国の結婚式とは本当に違いました。人々には余裕があったし、その余裕の中に結婚式を心より楽しんでいました。

韓国と日本は本当に近い国です。同じアジアで同じ肌色を持っています。こんなに似ている点もあるが反対に違う点も多いです。私もいつ韓国に帰るか分からないですが、日本という国で学べることは全部学んで良いことは自分のものになるように努力して未来、多くの人々に役に立つそんな人になりたいとおもいます。

私の夢

大阪大学大学院

医学系研究科医科学専攻

朴宗仁 (韓国)

(世話クラブ：高槻東RC)

私は高校卒業後、韓国の梨花女子大学の工学部に進学しました。毎日同じような大学生活を送っている途中、日韓共同理工系学部留学生という、韓国政府と日本政府の支援のもとで理系の学生が日本の国立大学の工学部で勉強できる奨学制度を知りました。高校のときから、いつか海外で生活してみたい、ほかの国の文化を体験してみたい、そしてそこで新しい自分を、新しい道を発見したいと思っていた私にとって、その制度は大変魅力的でした。そこで韓国の大学を退学し、日本語研修を経て広島大学の工学部に入学しました。現在は神経疾患を有する患者さんの指タップ運動特性解析に携わっております。

大学院では、研究を進めるにあたって先生方のご指導のもと実際に患者さんの指タップ運動を計測する機会を得ることができました。パーキンソン病患者さんは年配の方が多いですし、今まで普通にできていた日常の動作を行うことが難しくなっていることからデプレッションを持っていらっしゃる場合があります。したがって計測の際にも自分なりに気をつけていますが、医学の体系的な教育を受けているわけでもなく、経験も少ないことから戸惑うこともあり、周りの先生に相談しながら患者さんに接しています。最初は患者さんとのやりとりが何となく難しかったですが、回数が重なるほど、楽しくなってきました。患者さんは病院に来られると少し緊張されることもあると思いますので、「最近だいぶ涼しくなりましたね」

などと自分から明るく声をかけたりすると、患者さんも緊張を和らげて楽な状態で計測にご協力いただくこともできますし、患者さんから「お勉強大変そうだけど、頑張っただね」という励ましのお言葉をいただくこともあってすごく元気づけられています。時々ドクターだと思われて疾患に関して相談されることもあります。そのときは「私がきちんと医学を勉強していたら、今すぐ患者さんに何かしてあげられるのに」と少し悔しい思いをする場合もあります。このような経験から、医学部に入り直して最初から勉強してみようと考えています。

医学部に入ることができたら、患者さんの状況に対する深い理解に基づいて的確な治療を行うことのできる親切な医師になりたいと強く思っています。患者さんは病院に来られるとき、疾患による苦痛を軽減したいことはもちろんのこと、自分のことを本当の意味で理解してくれることを望んでいらっしゃると思います。患者さんのことを理解しようと必死に努力する姿勢をみせれば、患者さんも医師を信頼することができ、より良い治療効果が期待できると思います。医学部に入って勉強することは大変だと思いますが、常にいろいろな方々とコミュニケーションしながらほかの人の役に立つお仕事ができる職業ですので、是非チャレンジしてみたいと思います。

My Dream in Future

Kwansei Gakuin University

RAUNO GIFFHORN (German)

(世話クラブ：東大阪西RC)



After graduation from University, it is my career aspiration to work as a journalist and foreign correspondent in Japan with the goal to bring the Japanese way of life closer to the people in my home country. Due to Internet, TV and global tourism, one might perceive the world as small, but I often noticed, when talking with my family and friends at home, that the German people still know very few about everyday life in Japan and its adjoining countries. One reason for this might be the superficial media coverage, which is widely employing clichés. An example for this coverage were the reports on the Japanese general election in August. Even Germany's biggest TV stations either focused on interviewing some costume players in Harajuku, or simply mentioned the election result in short notice. It seems that in the German news coverage about Japan extraordinary pictures outrank serious information.

However I believe that there are other interesting aspects beyond established stereotypes which people are unaware of. Most people believe Japan and Germany

to be utterly different, but in fact both countries are facing similar problems. For example their society and population are continuously ageing, they lack sufficient natural resources and their economy focuses mainly on export. With regard to such similarities, I believe it is only reasonable to try and learn from each other.

In order to be prepared for my future career as correspondent in Japan, I applied for the International Relations Program of the Kwansei Gakuin University and I was accepted for enrolling in April 2010.

It is my ambition, not only to learn more about Japan and its role in international politics, but also about the societies, cultures and political systems of the other East Asian countries. I look forward to take up studies at such a traditional and cosmopolitan institution like the Kwansei Gakuin University. This will be one important step of realizing my dream of becoming a foreign affairs journalist.

In particular I want to express my gratefulness to the Rotary Yoneyama Memorial Foundation for the kind acceptance and support.

来日して自分の国と違うなと思ったこと

関西大学

商学研究マーケティング・マネジメント専攻

李映瑩(台湾)

(世話クラブ：大東中央RC)



はじめまして、台湾の彰化市から参りました李映瑩と申します。2007年9月に日本に留学しに来ました。今は関西大学商学研究科の修士課程2年です。専攻はマーケティング・マネジメントです。

台湾と日本はかなり近くて、台湾で日本の文化や流行ものはすごく人気があります。しかし、伝統のこととか習慣の違いはかなり大きいです。台湾と違うところはたくさんあります。

1. 交通：日本の鉄道、飛行機などの交通はすごく発達、便利で、時間もいつも正しいです。もし電車やバスの時間が過ぎたら、かならずお詫びの放送が聞こえます。しかし台湾では電車の時間が時々過ぎて、お詫びの放送もあまり聞いたことはありません。

2. 食べ物：日本人は食べ物を食べる時は「いただきます」、食べた後は「ごちそうさまでした」を言いますが、台湾ではそういう習慣はありません。そして立ち食、日本の駅の近くによく見えますが、

しかし台湾ではあまり見かけません。

3. 日本が発明したカラオケは台湾でもたくさんあります。しかし、歌う習慣はまったく違います。例えば、台湾人の場合ではカラオケで歌を注文するとき一人一曲ずつ注文するのではなく一人で何曲を注文する機会が多いです。日本人は年上の人とか上司の人に一緒にカラオケに行くと必ず上司から歌を注文します。台湾人は歌を歌うとき、もし一緒に行った人はこの歌も好きな場合はかならず一緒に歌います。しかし、日本の場合はほかの人の歌を歌うことはできません。そして歌を聴いて、歌が終わった後はかならず拍手します。時々聴きたくない場合も多いではないでしょうか。

4. 台湾では仕事上で仲のいい上司と話すときは時々友達みたいな関係がありますが、日本の場合ではいくら上司と仲良くても他人がいれば、かならず「敬語」を使います。自分の場合では謙譲語を使わなければならないです。敬語で話す時は硬い感じがするので、人と人の間は壁が作りやすいではないか私は思います。

以上は台湾と日本の習慣の違いを挙げたすこしの例です。他にもいっぱいあります。悪い習慣、いい習慣、面白い習慣など自分の国とぜんぜん違う

ところを見つけるのもすごくおもしろいです。私はいくらからも台湾のいい所、日本のいい所を探して、自分を変えようと思っています。

私の夢

大阪大学大学院
言語文化研究科 言語文化学専攻

劉璐(中国)

(世話クラブ：大阪御堂筋RC)



たぶん皆さんも私と同じように、子供の頃は、よく「将来の夢はなんですか」と聞かれたことがあると思います。私は小学校に入学する前までには、この様な質問をされるたびに、すごく嬉しそうな顔で、「鳥になって空を飛びたい!」とか「チョコレートが生える木ほしい!」とか、おバカな答えばかりでした。小学生になると、腕のいいお医者さん、大きい会社の社長さん、有名なバレリーナ、オリンピックに出場する水泳選手など、いろんな自分の未来の姿を想像することが好きでした。中学校に入ると、夢の一つを実現するためにどれほど大変なものなのか、やっと気付きました。そしてしばらくの間、自分の夢の一つに絞ることが「夢」でした。高校三年間は受験勉強に追われる毎日だった。そのときの夢も良い大学に受かることでした。

そして、無事に大学に合格し、地元から3000キロも離れた土地に一人で大学生活を始めました。新しい友達と出会い、新しい知識を学び、新しい刺激を受けながらとても充実した日々を送っていました。それらの出会いの中の一つは、大学三年目の最後の冬休みの時でした。四年生になると授業の数がかなり減ると聞いて、何かやることを見つけないと時間を無駄にしてしまいそうと思って、見つけたのは小さな日本語教室でした。その教室の先生は日本留学の経験を持っておられる方でして、授業中にもよく

留学生時代の話を聞かせていただきました。その話も魅力的でしたが、そこで初めて触れた日本の言葉そのものが私を強く夢中にさせました。そのとき、ふっと小学生頃にあった数多くの夢の中の一つを思い出しました。それは「何ヶ国の言語を自由に操る翻訳者」でした。そして、大学卒業後、日本への留学を決意しました。日本語学校、大学院修士課程を経て、今は大阪大学言語文化研究科の博士後期課程の在学学生として、自分の夢に近づこうと頑張っています。

また、日本に来てから、もう一つの夢を見つけることが出来ました。それは、将来中国で日本語の先生になることです。ただ単に日本語を教える教師ではなく、言葉を教えながら日本社会の習慣や日本人の考え方など、相手の国の文化も学生たちにちゃんと理解させることができる教師になりたいと思っています。先生たるものはまず人から慕われるようにならなければならないと思います。そのために博大な知識と豊富な人生経験が必要だと思います。日本に来たことも、ロータリー米山奨学生になったことも、そしてたくさんのロータリアンの方々とお会いしたことも私にとって人生の宝物と言えるでしょう。すべての学生に慕われる教師になるという夢はおそらく一生かかっても実現できないかもしれないが、そうなれるように頑張っている自分が好きなので、これからも諦めずに頑張りたいと思います。



ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2008年度会計収支決算報告書

2008年7月1日～2009年6月30日

単位：円

●収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	1,161,897	
特別補助金	555,288	2660地区
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
会費収入	46,000	
總會収入	87,000	
總會補助金	60,000	米山記念奨学会
秋懇親会収入	309,000	
秋懇親会補助金	33,000	米山記念奨学会
広告費収入	10,000	荘園様
利息収入	1,726	
寄付金収入	97,000	近藤、笠原、磯田、村橋、青木、大阪城南RC有志一同
総計	2,460,911	

●支出の部

科目	金額	備考
運営費	173,028	
事務用品費	3,315	
交通費	18,050	
会報作成費	207,900	
寄付金支出	20,000	義護協会
總會費用	243,290	
秋懇親会費用	624,738	
春懇親会費用	38,680	
通信費	33,574	
雑費	10,250	
次年度への繰越金	1,088,086	郵貯¥989,263、現金(手元有高) ¥98,823
総計	2,460,911	

学友会(関西) 会計: 李麗愈 (2009年7月5日)

会計監査報告:

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査: 荘園 福松 (2009年7月5日)

特別個人寄付に感謝いたします。

ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2009年度会計予算(案)

2009年7月1日～2010年6月30日

単位：円

●収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	1,088,086	
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
会費収入	50,000	
總會収入	90,000	
總會補助金	60,000	米山記念奨学会
秋懇親会収入	300,000	
秋懇親会補助金	30,000	米山記念奨学会
利息収入	2,000	
総計	1,720,086	

●支出の部

科目	金額	備考
運営費	150,000	
事務用品費	10,000	
交通費	20,000	
会報作成費	200,000	
總會費用	300,000	
秋懇親会費用	600,000	
通信費	40,000	
寄付金支出	20,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	370,086	
総計	1,720,086	

学友会(関西) 会計: 李麗愈 (2009年7月5日)



● 総会



● 地区大会



● 宝塚歌劇



● USJ遊園地



● 秋懇親会